

はると君のことを想ひ……

ラジオネーム：トミおばさん

毎年、8月10日は私にとって大切な日です。

10年前の今日、はると君は天国に旅立った。わずか6歳だった。

はると君は、我が家の隣にある公園によく遊びに来ていて、

いつしか、我が家に来て遊びに来るようになっていました。

どうして、私になついてくれたのか、今でも不思議な気持ちが残ります。

10年前の夜、はると君は家族が見守る中、静かに息を引き取った。

小児ガンだったという。毎日のように「痛いよ。頭が痛いよ。」と

泣きながらも、「僕はもうすぐお空に行くんだ」と、自分の運命を

悟っていたようでした。

小児ガンと判明してから、わずか半年後の死。家族が気づいた時は

もう既に手遅れで、幼いはると君の死は、あまりにも早すぎました。

8月のある日、私がららっと公園に立ち寄ると、はると君のお父さんが

一人でいつものベンチに座っていたので、私が

「じいちは。あわっ。今日 はると君が。」と聞くと、

突然お父さんは泣き出してしまいました。

そこで初めて、はると君の病気のことで、もう長くは生きられないこと、辛かった家族の闘病生活のことなど、お父さんは抱えていた思いをすべて吐き出すように、私に話してくれました。

…別に私は、血のつながった家族でもなんでもない、

ただの近所のおばさんなのに、あの笑顔で遊びに来てくれたはると君のことを想うと、なんだか心にぽっかり穴があくような感じがしました。

そして、8月10日の夜。お父さんから電話があり、はると君が天国に旅立ったことを聞いたのです。

あれから10年。生きていけば、はると君は16歳になります。

毎年8月10日が訪れるたびに、私もお墓に手を合わせて行かせてもらっています。

きっと天国で、はると君が成長して立派な青年になっているのかなど、あの笑顔を思い出しながら、想像しています。

リクエスト曲

＜ 蕾 つぼみ

／

ロブクロ

＜